

6 生き方を問い続けて

1 主 題 同和問題（部落問題）

2 主題・教材について

奈良県においては、早くから同和教育が取り組まれ、各地で様々な実践が行われてきた。特に1965（昭和40）年に出された「同和对策審議会答申」以後、多くの人々の取組と様々な行政施策が相まって、県民の人権意識の高揚や部落問題についての認識の深化など多くの成果を生んできた。しかし、自身が「不利益を被りたくない」という思いから、被差別部落（以下、部落）とのかかわりを避けたいという意識が生まれ、部落出身者との結婚において周囲が反対するなど、未だ部落問題の解決には至っていない。

このような状況の中、部落問題を解決するには、社会において一人一人がこの問題を自らの課題として捉える必要がある。そして、部落に対する自身の意識を互いに明らかにすることから、この問題の解決につながる新たな関係を結ぶことが求められる。

この教材は、交際や結婚を巡って部落問題に直面した筆者が、差別を乗り越え、自らの生き方を問いつつ強く生きようとする姿を描いている。また、筆者を取り巻く様々な人たち（彼女や彼女の両親、友人）の部落問題との向き合い方も描いている。筆者の生き方や偏見や差別を乗り越えてきた人たちの生き方に学ぶことを通して、部落問題を自らの問題と捉え、この問題の解決に向け、行動しようとする態度を培いたい。さらに、部落問題に対する自らの意識とともに人と人との関係性に目を向け、あらゆる人権問題の解決に向け、偏見に縛られない関係を築く力を身に付けさせたい。

3 ねらい ・ 部落問題を自らの問題と捉え、差別をなくしていこうとする主体的な態度を身に付ける。

4 展開例

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入	結婚について考えてみよう。		
	- 大切だと思う結婚の条件について、自分の考えを出し合う。 「日本国憲法第24条」を読む。	結婚は「個人の自由」であり、「両性の合意に基づく」ものであることを確認しておく。	資料
展開	結婚における部落差別について考えよう。		
	- 本文（P.20）を読み、なぜ彼女は交際の申込みを断ったのかを考える。 - 部落出身を理由に交際を断った彼女の気持ちを想像し、話し合う。 - 結婚に反対する人は部落の「何」を気にして偏見をもち、差別するのかを考える。	- お互いに好意を持ちながらも、結婚を意識したとき、家族のつながり、偏見や差別によって制約を受ける現状があることに気づかせたい。 - このことは結婚における部落差別であることを押さえる。 「二十歳超えたし……。親捨てられへんし……。」と、泣きながら言った彼女の気持ちに迫らせたい。 - 結婚差別は、部落の人だけでなく、部落出身でない人も傷つけ不幸にしてしまうものと捉えさせたい。 - 部落や部落差別についての知識を整理し、過去の問題ではないことを押さえる。 - 意識調査の結果にも着目して考えさせたい。 「自分たちも差別されるかもしれない」「そう見なされる可能性を避け	P.24～P.25 部落問題についての解説 P.25のグラフ

